

●中野市内、南部地域と北部地域の積雪量に大きな差がみられるため、早目に特報を配布させていただきます。ご理解をお願い致します。

●今後の気温上昇に伴い、融雪が進んでくると予想されますので、第1回目の防除に向けて園地整備・剪定作業・SS走路の確保などを順次進めて下さい。

(平岡定点) 太陽 発芽日

平年	H29	H30	R1	R2	R3	R4
3/24	3/27	3/23	3/22	3/11	3/21	3/25?

1. 薬剤散布

【第1回 定期防除】 対象病害虫：ふくろみ病・カイガラムシ類

散布時期	発芽前（防除態勢が整い次第） ・ プラム ：「南部」－3月中旬～、「北部」－3月下旬～ ・ プルーン ：3月中下旬～	
散布薬剤	水 98ℓ スプレーオイル 2ℓ トレノックスフロアブル 200ml	散布日 _____ 月 _____ 日 散布量 _____ ℓ
散布量	300ℓ / 10a	
注意事項	① <u>【カイガラムシ対策】</u> アプロードフロアブル 1,000倍（14日前、2回）を加用する。 ② <u>【ふくろみ病 対策】</u> トレノックスフロアブルに代えて、ホーマイコートの100倍（休眠期、1回）を使用する。 ③ <u>【代替】</u> トレノックスフロアブル＋スプレーオイルに代えて、石灰硫黄合剤の10倍（発芽前）を使用しても良い。 ＊石灰硫黄合剤は、トレノックスフロアブル、アプロードフロアブル、ホーマイコートと混用できないため、注意する。	

次ページもご覧ください

1. 「果樹類」の雪害修復対策について（県からの情報提供）

(1) 主枝等の枝折れの処理

- 骨格枝等が折れている場合（図1）は、せん定時に枝元で切り、塗布剤を処理する。切断した付近に主枝候補枝を求めたい場合は、切り口周辺から発生する徒長枝を大事に育てる。
- 枝の基部から裂けるなどして修復不可能な場合は、癒合促進のため傷口をできるだけ滑らかにし、塗布剤を処理する。

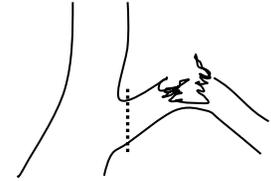


図1 折れた太枝の処理

(2) 幼木の主幹が折れた場合

- 幼木が穂品種と台木部の継ぎ目で折れたものは、苗木を更新する。
- 穂品種が折れた場合、仕立て直しが可能な若木は、切り口に塗布剤を処理し、生育期に伸長した新梢を利用して再育成する（図2）。
- 生長の見通しが見つからないものは、苗木を更新する。

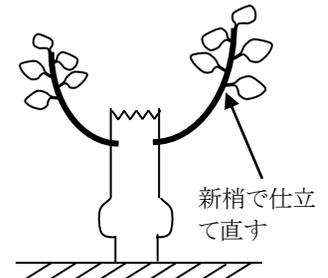


図2 穂木の部分から折れた場合

(3) 骨格枝等を修復する

りんご等の立ち木果樹類

- 倒伏した樹は、土壤水分が十分な状態を確認してから徐々に起こし、支柱で補強する。
- 裂けた骨格枝等で修復可能なもの（裂けた長さが50～80cm程度で、縦方向の通導組織の破断が少なく、1/3程度の樹皮が残っている等）は、枝をセルフジャッキや支柱で持ち上げ、ボルト、かすがい、縄などで固定する（図3、4）。また、乾燥防止、病害防止のため、傷口は接合後に塗布剤で覆う。

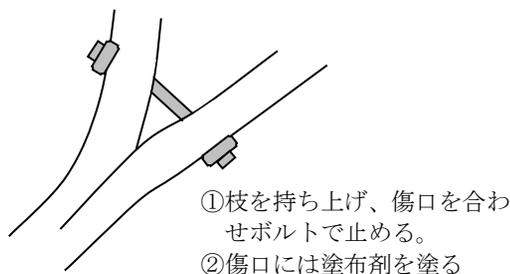


図3 枝が2つに裂けた場合

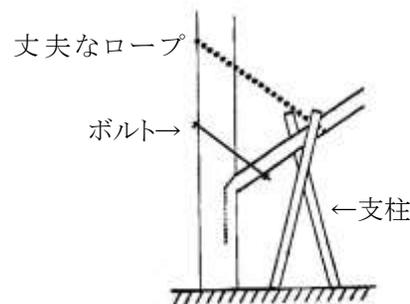


図4 裂けた主枝の接合例

- 枝裂けが激しく生育の見込みが立たない枝は、癒合促進のためチェーンソーなどで滑らかに削り、塗布剤を塗る。特に、モモやプラム等の核果類は、折れた骨格枝は弱る場合があり利用できないことが多いので、避けた状況をよく見極め対応する。

2. 重要病害虫

① ふくろみ病

越冬場所：樹上（主に芽の周辺）

防除対策：殺菌剤の散布。被害果実の除去。

防除適期：発芽前、花蕾が開き始めるまでに(下写真)
(休眠期および第1回定期散布)

ふくろみ病 感染開始期（下写真。花蕾が開き始めた頃）
この頃から、降雨により感染する。



② ウメシロカイガラムシ

越冬場所：樹上（主に枝の表面）

防除対策：①マシン油乳剤（スプレーオイル）、殺虫剤の散布
②ブラシで擦り落とす。被害枝を切除する。

防除適期：休眠期（スプレーオイル散布）
5月中下旬（殺虫剤散布）

ウメシロカイガラムシ越冬成虫（下写真）
（白い殻を剥がすとオレンジ色の成虫が見える）

